

## 平成 23 年度「森林生態系保全再生」（具体的取組）実施報告

平成 23 年度の森林生態系保全再生については、大台ヶ原を特徴づける森林生態系の保全を強化するとともに、森林更新環境の回復や森林減少を防ぐことを目的に設定された中期目標及び短期目標に基づき、以下の取組を行った。

### 1. 大台ヶ原を特徴づける森林生態系の保全に向けた取組

#### (1) 緊急に保全が必要な箇所における対策の強化

##### 1) 防鹿柵の設置箇所の検討（参考資料 1-1）

平成 22 年度に検討した平成 24～28 年度の植生保全対策（区域保全対策及び単木保護対策）の整備基本方針に基づき、次年度以降の防鹿柵設置箇所の検討を行った。

##### 2) 防鹿柵の設置

昨年度設置を検討した箇所に、防鹿柵を設置した。今年度までに設置した防鹿柵は 44 箇所、総面積は約 59ha である。この他、森林更新の場の保全を目的とした小規模防鹿柵を 21 箇所、総面積は約 0.1ha 設置している。

### 2. 森林更新環境の回復

#### (1) 林床のミヤコザサの抑制

##### 1) 機械刈りによる大規模なササ刈りの実施

更新を阻害しているミヤコザサを衰退させることを目的に、大規模ササ刈り試験を実施した。また、ミヤコザサはニホンジカの主食となっていることから、大規模にミヤコザサを刈り取り、衰退させることにより、ニホンジカの環境収容力を減少させる効果も期待される。

ササ刈りを行った箇所は昨年度と同一（正木峠周辺および三津河落山周辺）であり、それぞれ約 1 ha の刈り取りを実施した（資料 1-2 別紙参照）。なお、平成 23 年度のササ刈りは平成 23 年 9 月 20～10 月 14 日に実施した。

### 3. 森林後退の抑制

#### (1) 森林後退の場所における樹木減少の抑制

##### 1) 母樹への剥皮防止用ネットの設置（トウヒ・ウラジロモミ等）

中道沿いの母樹 2500 本について、非金属製剥皮防止用ネットの設置を行った（新規巻きつけ 1250 本、巻き直し 1250 本。なお、平成 23 年度実施予定分は、前倒して平成 24 年度～平成 28 年度の整備基本方針に準じて検討を行っている）。今年度までの全実施本数は、劣化した金属製剥皮防止用ネットの交換も含め、合計約 46,000 本、総面積は約 83ha である。

#### (2) 森林後退の場所における森林更新の場の保全（参考資料 1-2）

##### 1) 防鹿柵外に自生するトウヒ・ウラジロモミ等の実生・稚樹の保護手法の検討

平成 22 年度に確認した自生稚樹の保護手法について検討し、小規模防鹿柵による区域保護対策および小規模に自生稚樹を囲う単木保護対策を組み合わせることで実施することとした。

## 第 2 期計画の中期目標及び短期目標

### 中期目標

① 大台ヶ原を特徴づける森林生態系の保全

② 森林の更新環境の回復

③ 森林後退の抑制

④ ミヤコザサ草地から森林への遷移

### 短期目標

①  
・ 緊急に保全が必要な箇所における対策の強化

②  
・ 過剰な動物の影響や菌害の抑制による実生の成長促進  
・ 林床のミヤコザサの抑制  
・ 実生の定着環境等森林更新に必要な適性な林床環境の明確化

③  
・ 森林後退の場所における樹木減少の抑制  
・ 森林後退の場所における森林更新の場の保全  
・ 森林後退の場所における森林更新の場の創出

④  
・ 森林への遷移に誘導するための手法の検討

※今年度具体的取組を実施していない項目も含む

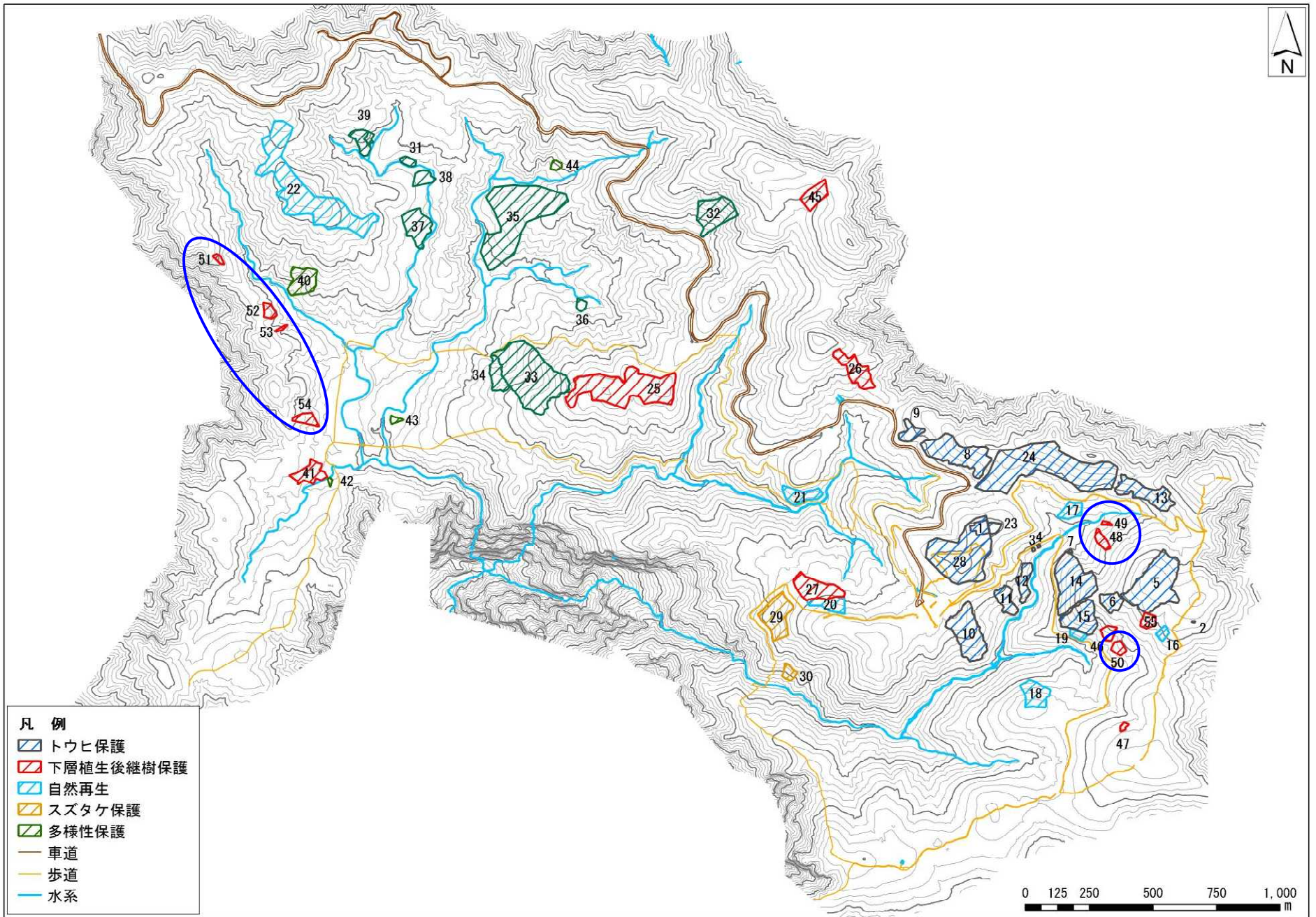


図1 次年度以降防鹿柵設置検討箇所

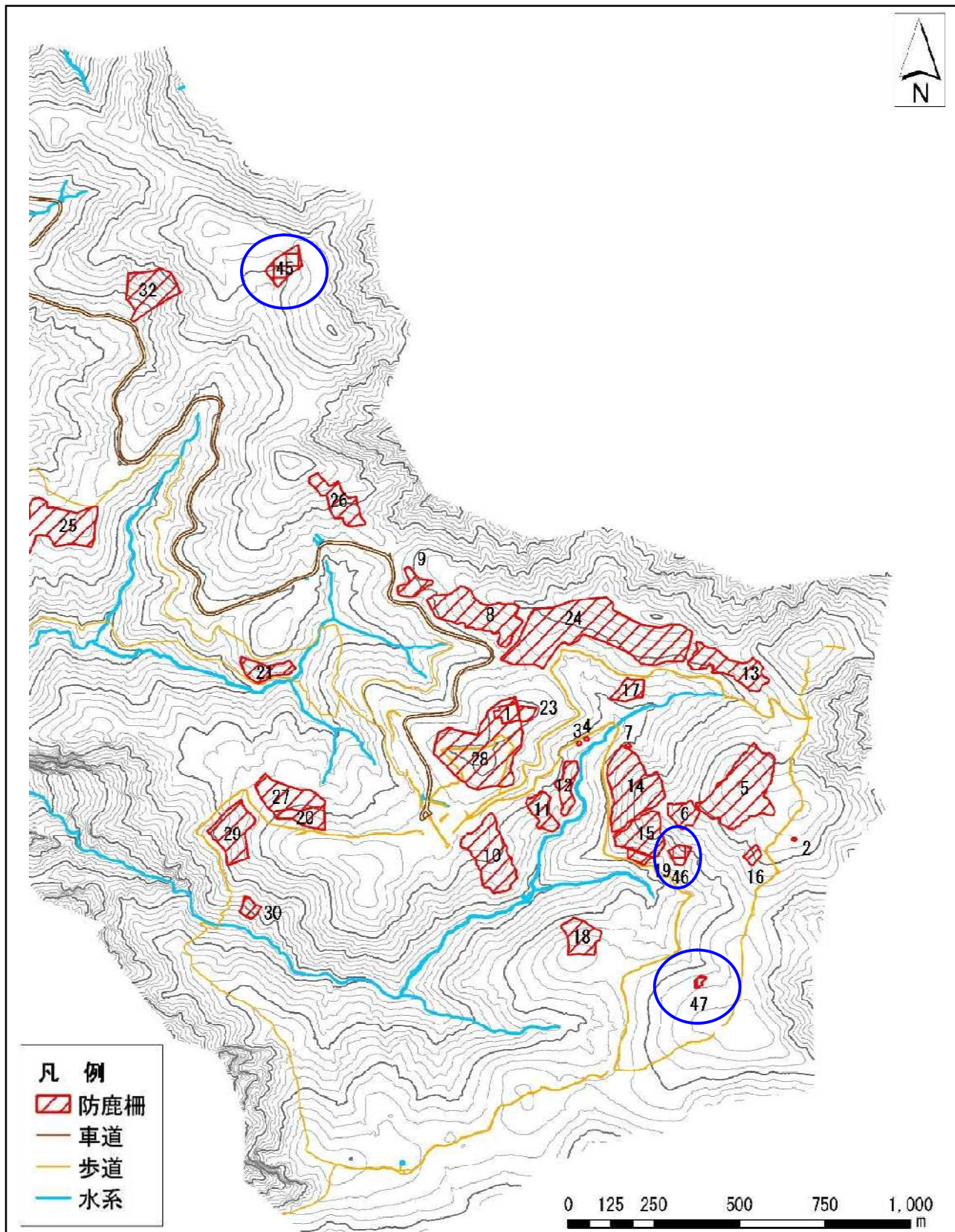


图2 平成23年度防鹿柵設置位置图

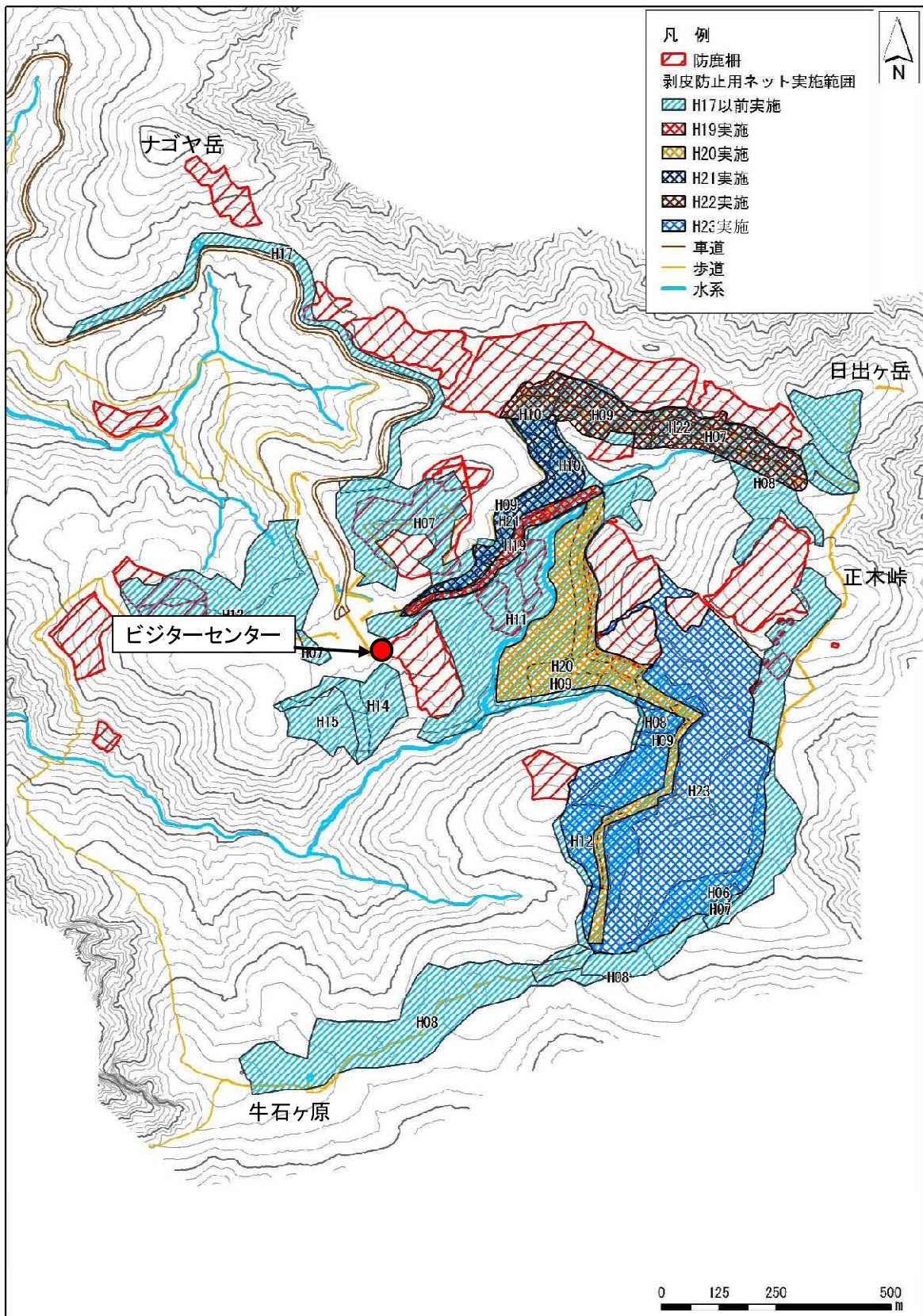


図3 剥皮防止用ネット設置位置図

